

太平経鈔卷五（十四葉裏第四行～十五葉裏第十行）

二〇二三年五月二十七日 担当 深澤一幸

【原文】

驗行鏡其身・自知可爲得失法・賢明智迺包裹天地・積書無極・而不能自壽益命・此名空虚・無實道也・術士之師也・久久還自窮之・學能遍授天文地理・悉解萬物之情・衆書並合備具・而不能事親尊君・此知無益也・詳思此言・吉凶可知矣・此以簡行・即令人自知得失・學問何者爲急・故陳列二事・分明士意失得之象・自開闢已來・行有二急・其餘欲知之亦可・不知之亦可・天地與聖明所務・當推行而大得者・壽孝爲急・壽者乃與天地同優也・孝者與天地同力也・故壽者長生・與天同精・孝者下承順其上・與地同聲・此二事者・得天地之意・凶害自去・深思此意・太平之理也・長壽之要也・

【訓読】

行いを験して其の身を鏡らせば、自から得失の法と爲す可きを知る。賢明智は迺ち天地を包裹し、書を積むこと極め無きも、自から寿にして命を益すこと能わず。此れは空虚と名づけ、実道無き也。術士の師也。久久として還た自から之を窮め、学は能く遍く天文地理を授け、悉く万物の情を解し、衆書は並びに合して備具するも、親に事え君を尊ぶ能わず。此れ無益なるを知る也。詳しく此の言を思うに、吉凶は知る可し。此れを以って行いを簡ばば、則ち人をして得失、学問は何者をか急と爲すを自知せしむ。故に二事を陳列し、士意失得の象を分明にす。開闢自り已來、行いには二急有り。其の余は之を知らんと欲するも亦た可なり。之を知らざるも亦た可なり。天地と聖明の務むる所にして、当に推行して大いに得るべき者は、寿孝を急と爲す。寿なる者は乃ち天地と優を同じうする也。孝なる者は天地と力を同じうする也。故に寿なる者は長生し、天と精を同じうす。孝なる者は下より其の上を承順し、地と声を同じうす。此の二事なる者は、天地の意を得て、凶害は自のずと去る。此の意を深思するに、太平の理也。長寿の要也。

【試訳】

おのれの行いを検査しておのれの身を明らかにすれば、得失を判断する方法にできることがわかるだろう。聖賢や明智の人は、天地を包含し、無限の書物を積み上げているが、自分の寿命を延ばすことはできない。これこそが空虚であり、真実の道ではないのである。術士の師匠なのである。長きにわたってやはり自らこれを窮め、その学は天文地理を遍く人に授けることができ、万物の状況をすべて解し、もろもろの書物はどれも備えているが、親に仕え君を尊敬することはできない。これで無益なことがわかるのである。この言葉を詳しく思えば、吉凶がわかるのである。これでもって行いを検査し、得失や、学問は何が急を要する

のかを自分でわからせるのだ。だから二つの事を並べて、士の意の得失の表象を明らかにする。天地開闢以来、行いには二つの急要がある。その他はそれを知りたいとおもってもかまわれないし、それを知らなくてもかまわない。天地と聖人・明智の人の務めとして、推行して大いに習得すべきことは、寿・孝を急務とする。寿とは、天地と優厚を同じくするものである。孝とは、天地と力を同じくするものである。だから寿者は長生きし、天と精気を同じくする。孝行者は下から上のものを受け止め、地と声の調子を同じくする。この二つの事は、天地の意を得ているので、凶害はおのずと消え失せる。この意を深く思うに、太平の理である。長寿の要である。

【注】

\* 驗行 「論衡」自然篇 道家論自然・不知引物事以驗其言行・故自然之說未見信也・『太平經』卷四十二 「驗道真偽訣」第五十七 右效行徵驗道知真偽秘訣・

\* 賢明智 『墨子』耕柱 鬼神孰與聖人明智・ 王褒「四子講德論」 故有聖賢之君・必有明智之臣・ 『太平經』卷九十「冤流災求奇方訣」第一百三十一 此名為賢聖明智・養身以道・知用財法・故多得老壽也・

\* 術士 『史記』儒林列傳序 焚詩書・坑術士・ 牟融「理惑論」 牟子嘗以五經難之・道家術士・莫敢對焉・

\* 簡行 『太平經』卷九十六 「守一入室知神戒」第一百五十二 凡人久久共不好利之也・此即天書所以簡人善惡之法也・

\* 士意 『太平經』卷四十九「急學真法」第六十六 夫聖賢高士・見文書而學・必與吾書本相應・不失絲髮之間・中士意半達・必達其半・下士自力・勤能不立法・

\* 聖明 『漢書』晁錯傳 利施後世・名稱聖明・ 劉琨「勸進表」 或多難以固邦國・或殷憂以啟聖明・ 『太平經鈔』卷二「錄身正神令人自知法」 是故賢聖明者・但學其身・不學他人・深思道意・故能太平也・

\* 壽孝 『太平經』卷四十二「驗道真偽訣」第五十七 其後生者孝且壽・悉工自養老・顔色不與無道時等・

【原文】

諸欲為善・求活者少・故父母者・生之根也・君者・授榮尊之門也・師者・智之所出不窮之業

也・此三者・道德之門戸也・父母廼傳天地陰陽祖統也・師者廼曉知天地之意・解凡事之結・君者當承天地・順陰陽・常務得其意・以理道為事・故此三者・性命之門戸也・深思此言・萬害除矣・壽孝者・神靈所愛好也・不壽孝者・百禍所趨也・此道自然不用力・欲知其効・常隨人意善惡所致・心意謀事於内・響應於外・欲知其道・正影響之應也・心意吉凶之門戸・古者太平之君・其理要但用心意善即臣善・用意誤・得臣亦誤・心意・天地樞機也・不可妄動也・使和氣錯亂・災害日生矣・

### 【訓読】

諸もろの善を為さんと欲して、活を求むる者は少なし。故に父母なる者は、生の根也。君なる者は、栄尊を授くるの門也。師なる者は、智の出でて窮まらざるの業也。此の三者は、道德の門戸也。父母は廼ち天地陰陽の祖統を伝う也。師なる者は、廼ち天地の意を曉知し、凡事の結を解く。君なる者は、当に天地を承け、陰陽に順い、常に其の意を得んことに務め、道を理むを以つて事と為すべし。故にこの三者は、性命の門戸也。深く此の言を思えば、万害は除かる。寿孝なる者は、神靈の愛好する所也。寿孝ならざる者は、百禍の趨く所也。此の道は自然にして力を用いず、其の効を知らんと欲せば、常に人意の善惡に随いて致す所なり。心意は事を内に謀り、外に響應す。其の道を知らんと欲せば、正に影響の応也。心(以)意は吉凶の門戸なり。古者太平の君は、其の理要は但だ心意を用いること善なれば即ち臣は善、意を用いること誤れば、臣を得るも亦誤る。心意は、天地の樞機也。妄動す可からざる也。和氣をして錯亂し、災害をして日に生ぜしむなり。

### 【試訳】

善行をしようと思う諸人で、生きることを求める者は少ない。だから父母とは、生の根本である。君とは、栄誉を授ける門戸である。師とは、智慧がそこから出て窮まらない基いである。この三者は、道德の門戸である。父母は天地・陰陽の遺業を伝えるものである。師というのは天地の意を知り、すべての事のトラブルを解決する。君というのは天地の意を受け、陰陽に順い、いつも天地の意を得ようとつとめ、道を理めることに従事すべきものである。だからこの三者は、性命の門戸である。この言葉を深く思えば、万の災害も除かれる。寿孝な者は、神靈が愛好するのである。寿孝でない者は、何百もの禍いが向かうのである。この道は自然なもので力を使う必要なく、その効力を知りたいならば、いつも人の意向の善惡にしたがってもたらされるのである。人の心意は事を内に謀り、外に対応する。その道を知りたいならば、まさに影と形の対応なのである。心意は吉凶の門戸である。むかし太平の君主は、その理としては心意の用いかたが善ならば臣下は善、心意の用いかたを誤れば、臣下(の心)を得るのも誤る。心意は、天地のキーポイントである。やたらに動かしてはならぬのである。(もし動かせば) 和氣が錯亂し、災害が日に日に生じることになる。

### 【注】

\*求活 『太平經』卷一百二十二「七十二色死尸誠」第一百八十六 長生求活·可無自苦愁毒·

\*榮尊 『太平經』卷四十七「上善臣子弟子為君父師得仙方訣」第六十三 夫人乃得生於父母·得成道德於師·得榮尊於君·

\*祖統 『後漢書』桓譚傳 今聖朝興復祖統·為人臣主·而四方盜賊未盡歸伏者·此權謀未得也·

\*性命 『易經』乾卦 乾道變化·各正性命· (孔穎達疏) 性者·天生之質·若剛柔遲速之別·命者·人所稟受·若貴賤天壽之屬也·

\*理道 『太平經鈔』卷九 聖人見萬物盡生·知其理重道也·

\*心意 『太平經』卷三十五「興善止惡法」第四十三 夫天不掩人之短·太古聖人不為也·名為曖昧政·反復致凶·不得天地心意·故先示之也·

#### \*理要

\*樞機 『易經』繫辭傳上 言行·君子之樞機·樞機之發·榮辱之主也· (王弼注) 樞機·制動之主· (孔穎達疏) 樞謂戶樞·機謂弩牙·